

10番目のゴール、人や国の不平等をなくそう。
国籍を問わず、誰もが理解しあえる、優しい未来を描く町へ――。

誰一人として取り残さない
優しい三芳町

ユニバーサルな取り組み

ユニバーサル=普遍的なという意味があり、誰一人として取り残さないSDGsのスローガンと一致します。三芳町でも在住外国人が増加するなか、きめ細かな外国人への配慮や国際交流、読み書きが苦手な子どもたちへの配慮を行っています。



三芳町の国際的な取り組みと、読み書きが苦手な子どもたちへの配慮



※各年3月末日現在

年	外国人登録数
2015年	486人
2016年	543人
2017年	654人
2018年	692人
2019年	758人

三芳町の5年間の外国人登録人口数の推移。年々増加しています。

国際化の波は三芳町にも 外国人登録人口増加

埼玉県内の在留外国人数は17万3,887人(2018年6月末)で、その前年の16万26人と比べると、13,861人増加しています。三芳町も例外ではなく、この5年間で486人から758人となり、およそ6割増加しています。日本語が不得意の人が多く、誰一人取り残さない社会のために支えあいが必要です。



子どものころから国際交流を肌で感じることはSDGsに繋がります。

オランダ・マレーシア 国際交流

2020東京オリンピック・パラリンピック大会のオランダホストタウンに登録された三芳町。オランダ女子柔道の選手たちを交えて一緒に食べるなど親睦を深めています。一方、マレーシア国のペタリングジャヤ市との姉妹都市締結を2017年に行うなど、国際交流を行っています。

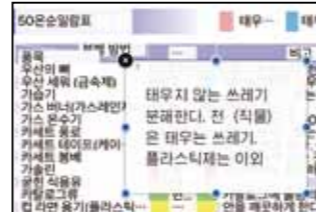


一般 三芳町
UD 三芳町

読み書きが苦手な子どものみならず、誰にでも優しい文字を提供。

ディスレクシアの子へ配慮 UDフォント

読み書きが苦手な学習障害のある「ディスレクシア」の子どもたちに配慮されデザインされたUDデジタル教科書体をはじめたオランダ給食を子どもたちと一緒に食べるなど親睦を深めています。一方、マレーシア国のペタリングジャヤ市との姉妹都市締結を2017年に行うなど、国際交流を行っています。



広報みよしのみならず、ごみ分別やハザードマップも多言語化。

まちの情報を外国籍の人に 広報などの多言語化

日本初、自治体広報紙を多言語化した広報みよし。日本語のほか英語、中国語(簡体・繁体)、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の10言語で配信。自動読み上げもでき、ごみの分別など、日常に関するものも配信しています。



17のパネルを持つ理事の梶さんと街のひろばのスタッフ、利用者が参加者やボランティアを随時募集しています。

- 1 外国籍の子どもと一緒に折り紙で小物を作るボランティアの黒澤明美さん(60)。「外国語が話せることを地域に役立てたい」と退職後の余暇もあり参加。「一見外国籍と分からない子どもたちも言葉やコミュニケーションで苦労している」と言います。
- 2 学生ボランティアも参加し勉強を指導。



冒頭の子どもたちはこの学習広場に集まってきた子たち。「日常会話はできて、学習言語は難しいんです。それをやさしい日本語に置き換えて伝えたり、絵で伝えたりすることがとても大切です」と言う梶さんの手元に梶さん手作りの教材が並びま

「日本語が話せない児童生徒の日本語学習支援として、2007年に小・中学生を対象に、放課後や夜間に学習支援する子ども学習広場を作りまし」と話す「街のひろば」理事の藤久保在住の梶加寿子さん。指導者と学生を含むボランティアが毎週月・水・金に藤久保公民館で学習支援をしています。

続

々と藤久保公民館の学習室に子どもたちが集まり、教科書やドリルを広げて一対一の勉強が始まりました。



藤久保公民館の一室で行われている学習支援の様子。子どもたちがリラックスして勉強に励みます。街のひろばの活動は評価され、2018年には児童教育を支援する博報財団が優れた取り組みを顕彰する博報賞を受賞しました。

街のひろば



日本語を母語としない子どもたちへ
言葉が生きる力に変わる。
日本語がわからない。そんな悩みを抱える子どもたちのため、学習支援と居場所作りをする「街のひろば」の皆さんにお話を伺いました。

誰もが公平に
学べる場所を
提供します。

自己表現ができると人生も変わる

小さなころから街のひろばを利用していた外国籍の子が大学生になれたのが嬉しい。日本語の文字や言葉が分かり、自己表現ができると、勉強が面白くなり、結果その子の人生が変わったのです。私が生まれ育った三芳町。救いの手が集まる素敵な町だと誇りに思います。

街のひろば 理事長 **松浦 康介さん** (竹間沢在住)

様子だったり不安そうにしている人を見かけたら、街のひろばや学習広場の存在を伝えてほしい。日本語で意思疎通ができるようになると自信に繋がります。言葉が生きる力に変わります。外国籍の子の心の拠り所、居場所が三芳町にあることを、もしもの時のために覚えていてほしいです。